



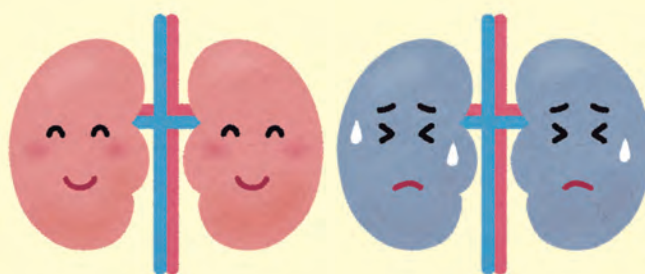
# 県病医療ニュース

〒870-8511 大分市大字豊饒476番地 TEL097-546-7111(代表) 内線7407:県病ニュース係  
※当ニュースへのご意見・ご感想は県病ホームページまたは、1階中央待合ホール備付けのアンケート用紙をご利用ください。

## 小児科

## 子どもの腎臓病 ～その種類と検査・治療について～

腎臓病には生まれつき(先天性あるいは遺伝性)の病気と、あとから発症する(後天性)病気とがあります。生まれつきの腎臓・尿路異常や血尿・蛋白尿は、胎児期・乳児健診での超音波検査の普及や、3歳児健診での尿検査・学校検尿により、早期に見つかる機会が増えています。



当院の小児科には子どもの腎臓病に専門的に対応する部門があります。この部門では腎炎やネフローゼ症候群(腎臓から尿中に大量の蛋白が漏れることで低蛋白血症や浮腫をきたす病気)や、先天性の腎臓・尿路異常(水腎症や膀胱尿管逆流症など)の管理・治療を幅広く行っています。

これらの病気の管理・治療には正確な診断・評価が欠かせないことは言うまでもありませんが、当院では尿・血液・画像(超音波・CT・X線透視)・放射線同位元素を使用した腎臓機能評価(RI検査)などの検査や腎臓内科と連携して腎生検も実施しており、正確な診断・評価が確実に行われるよう万全を期しています。

また、より高度な管理・治療が要求される溶血性尿毒症候群(O-157などの腸管出血性大腸菌感染によるものがある)や急性糸球体腎炎などの急性腎障害にも対応しており、必要に応じて緊急血液浄化療法(透析療法)も行っています。



## 小児科

# 子どもの腎臓病

～その種類と検査・治療について～

さらに、慢性腎不全での維持透析(日常的に行う透析)や腎臓移植後の管理についても九州大学病院や福岡市立こども病院、当院腎臓内科と連携しながら適切に対応しています。手術が必要となる水腎症や膀胱尿管逆流症などの病気も泌尿器科と連携し、手術前後の管理をサポートしています。

当院小児科は大分県の腎臓病の子どもたち一人ひとりに合った最適な管理・治療が提供できるようにこれからも努力して参りたいと考えています。今後とも宜しくお願い致します。

(小児科 主任医師 塩穴 真一)

## <代表的な小児期の腎・尿路疾患>

先天性腎・尿路異常	水腎症、膀胱尿管逆流症、低形成腎、多のう胞性異形性腎など
遺伝性腎疾患	Alport症候群、良性家族性血尿、多発性のう胞腎など
糸球体腎炎	急性糸球体腎炎(溶連菌感染後など)、慢性腎炎(IgA腎症など)
ネフローゼ症候群	特発性ネフローゼ症候群など
腎不全	急性腎不全(溶血性尿毒毒症候群など)、慢性腎不全

